

会 議 録

作成日 令和8年5月22日(金)

日	令和8年5月19日(火)	時間	14:00 ~15:45	場所	市役所2階 203 会議室
件名	(議題) 第3次糸魚川市生涯学習推進計画 令和8年度実施計画について				
出席者	【出席委員】9人(敬称略) 米岡洋、井崎由紀子、清水博、高野秀樹、古市正信、長砂男、 田邊和子、松本香織、清水友樹				
	【事務局(文化スポーツ課)】9人 川合課長、宮田課長補佐、渡邊係長、丸田係長、作本主査、青木主査、 松崎主査、渡辺主査、関澤主事				
	傍聴者定員		5人	傍聴者数	0人

会議要旨

全体進行：事務局と委員長

- 1 開 会 (14:00) 川合課長挨拶
- 2 自己紹介
- 3 協 議

(1) 第3次糸魚川市生涯学習推進計画 令和8年度実施計画について

・事務局から重点事業について説明

① ブックスタートについて

【委 員】絵本のプレゼントは1冊だが、交換など、親子で絵本に関する情報を共有する機会があれば良いと思う。

【事務局】本に触れるきっかけ作りとして、1冊プレゼントしている。配布している絵本は、図書館で取り扱っているので、利用促進も期待しているが、交換や共有する機会も検討したい。

② いのちの安全教室について

【委 員】親子で命について考える機会であるが、どの年齢を想定しているのか。

【事務局】年齢関係なく誰でも参加できる事業として実施しているが、昨年度は、未就学児から小学生までの参加があり、小学生を想定していると考えていただきたい。

③ お父さんといっしょについて

【委 員】お父さんの参加促進について苦労していると思う。PTAの役員に夫婦で関与することで、お父さんが学校に関心を持つようになり、参加してくれるようになるので、夫婦

での参加を検討してみてもどうか。

【事務局】お父さんだけの参加で実施しているが、お母さんの参加によって、良い効果が期待されることから、お母さんも参加できる事業も検討したい。

【委員】参加された方のご家族のお母さんからアンケートを取り、参加後のお父さんとお子さんの変化を事業効果として周知すればよいと思う。また、趣旨は、あくまでもお父さんが主体であり、お父さんの積極的な参加を期待したい。

【委員】お父さんをメインにして、お母さんの参加も可能という形ではどうか。

【事務局】これまでの形にとらわれず、柔軟に対応したい。

④ 青春（アオハル）サポーターについて

【委員】SNSでの情報発信やポスター作成などを高校生に任せてみてどうか。

【事務局】運用におけるリスク管理等、確認のうえ、進めたい。

⑤ 生涯学習講座について

【委員】市民ニーズは、どのように把握するのか。

【事務局】講座実施の際、アンケートを実施し、把握している。

【委員】アンケート結果でニーズの多い順で実施するのか。

【事務局】結果を踏まえ、効果が高い事業を検討し、実施している。

【委員】対象は18歳以上となるが、実施事業によって、年齢や参加者のレベル等に制限等かけるのか。父親になる前に講座を受講することで、お父さんといっしょへの参加につながるのではないか。

【事務局】実施事業の検討において、参考とさせていただく。

【委員】学校と連携した伝統芸能を学び、継承していくための事業を実施してはどうか。

【事務局】学校連携だけでなく、デジタルアーカイブを活用するなど、伝統芸能の継承に資する事業を検討したい。

【委員】シフォンケーキ作りなど、市が実施すべき事業なのか疑問である。

【事務局】社会教育、生涯学習は、全ての学びに通じるものであり、すべてに該当するが、糸魚川としてこの地域、あるいは未来ある子供たち、成人において本当に必要なものは何かしっかりと検討したい。また、人がたくさん集まる活動だけでなく、本当の意味で必要があり、かつ、大勢参加いただけるような事業展開を考えたい。

⑥ スポーツ推進事業について

【委員】部活動の地域移行へのシフトにより、部活動に入らない子供がたくさん増え、スポーツをやるきっかけが少なくなっている。また、勝利至上主義の考え方もあるが、結果云々ではなく、健康のためにも、みんなでスポーツを楽しむというものが失われていると感じる。スポーツをやってきたから、大人になった時に子供に教えることができるので、スポーツに関わる必要を強く感じている。

【委員】部活の日数や出場大会の制限など、縛りが多くなってきていて、簡単にスポーツをやる状況ではなくなっている。また、遠征など、スポーツ自体がだんだんお金持ちのスポーツになってきていると感じている。

【委員】取組を始める入り口がない。きっかけがない。子供たちが望めば、選んで取組を始めやすい形を構築するには、情報発信や窓口作りが必要である。

【委員】部活をチャンピオンスポーツとして捉えるのか、レクリエーション、生涯スポーツとして捉えるのかも大事である。部活動を地域に移行し、スポーツをやれる環境が作れたら、そのスポーツを楽しむことが原則で、そこに誰もお金をかけないで参加できる環境が一番良いと考える。チャンピオンスポーツとして、勝利を目指すという部分を完全に捨て去ることはなかなか難しく、地域に移行しても、指導者が子供の人間性、個性、将来性などを全く無視して、自分の勝ちたいという思いだけで指導する可能性もある。

【事務局】指導者が子どもたちの健康なり、将来を考えた中で、ルールを守って過度な指導をしないようコンプライアンス研修を実施します。また、生活困窮世帯についても支援する方向で考えています。

(3) 令和8年度 生涯学習推進事業について

- ・事務局から年度スケジュールについて説明

4 その他

特になし。

5 閉会 (15 : 45)